

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病虫害防除室 Tel 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp

平成30年農作物病虫害発生予察予報第8号

9月の気象概況

天気は数日の周期で変わらるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

[水稲関係]

病虫害名 ツマグロヨコバイ (第2世代)

- 1 予報内容
発生時期：加害最盛期は9月上旬頃
被害程度：少発
発生量：平年よりやや少なく、前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 8月中旬の発生量は少ないので防除の必要はない。
(2) 熟期の遅い品種では発生に注意する。

[オオムギ関係]

病虫害名 裸黒穂病 (種子消毒)

- 1 予報内容
発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 種子伝染するので、種子を更新し健全な種子を使用する。また、塩水選(比重1.13)により不良麦を除去する。塩水選終了後は塩水を落とすために水で十分に種子を洗い、むしろなどの上に広げて陰干しする。
(2) 薬剤消毒や風呂湯浸法(湯の温度を42℃にし、10時間浸漬する。浸漬中は1時間当たり1.5℃程度温度を下げるようにする。種子は積み重ねず、浸漬直後とその後には時々攪拌する)により種子消毒を徹底する。

病害虫名 雲形病（種子消毒）

1 予報内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 種子伝染するので、種子を更新し健全な種子を使用する。また、塩水選（比重 1.13）により不良麦を除去する。塩水選終了後は塩水を落とすために水で十分に種子を洗い、むしろなどの上に広げて陰干しする。
- (2) 薬剤消毒や風呂湯浸法（湯の温度を 42℃にし、10 時間浸漬する。浸漬中は 1 時間当たり 1.5℃程度温度を下げるようにする。種子は積み重ねず、浸漬直後とその後は時々攪拌する）により種子消毒を徹底する。
- (3) 種子が覆土されると発病が少なくなるので、条播を励行する。
- (4) 早播きすると発生が多くなるので、適期播種に努める。

[ダイズ関係]

病害虫名 ハスモンヨトウ

1 予報内容

発生時期：幼虫加害最盛期は 9 月中旬頃

被害程度：中発、局多発

発生量：平年、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 白変葉や分散前の若齢幼虫がみられたら、直ちに防除を行う。

病害虫名 カメムシ類

1 予報内容

発生時期：加害最盛期は 9 月中旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 圃場への侵入が多くなる子実肥大終期（9 月中旬頃）に防除を行う。
- (2) 9 月中旬の加害最盛期に、1 圃場あたり 100 株ずつ 3 カ所の見とり調査を行い、カメムシ類が平均して 100 株当たり 4.0 頭以上いる場合は防除を行う。
- (3) ホソヘリカメムシが優占種である場合は、加害能力が高いので注意する。
- (4) 薬剤は莢に十分付着するように散布する。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

1 予報内容

発生時期：第 3 世代成虫発生最盛期は 9 月中旬頃

被害程度：少発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 8 月下旬に第 2 世代成虫の防除を行っていない圃場は、9 月上旬までに防除を行う。
- (2) 薬剤は莢に十分付着するように散布する。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キャベツ ハクサイ	べと病	初発期： 10月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 圃場排水をよくする。 2) 密植を避ける。 3) 肥料切れをさせない。 4) 被害葉を除去する。 5) 薬剤散布の際は、葉の裏側にもよくかかるようにする。
ハクサイ	白斑病	初発期： 10月上旬	少発	平年：並み 前年：多	1) 酸性土壌を矯正する。 2) 圃場排水を良くする。 3) 肥料切れをさせない。
ダイコン ハクサイ キャベツ	軟腐病	初発期： 10月上旬	少発	平年：多 前年：多	1) 連作を避ける。 2) 圃場排水をよくする。 3) 間引き作業は適期に行う。 4) 食痕性害虫を防除する。 5) 発生が予想される場合は、薬剤防除を行う。
	モザイク病	初発期： 9月下旬	少発	平年：並み 前年：やや多	1) アブラムシを防除する。 2) 発病株は早めに除去し、処分する。
ニンジン	黒葉枯病		少発	平年：やや多 前年：多	1) 連作を避ける。 2) 圃場排水を良くする。 3) 肥料切れをさせない。 4) 予防散布に努める。
ネギ	さび病		少発	平年：やや少 前年：やや少	1) 適正施肥につとめ、草勢を良好にする。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 3) 薬剤防除の際には、展着剤を加用し、葉全体に薬液が付着するようにする。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
全般	アブラムシ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 対象作物により薬剤が異なる。 2) 薬剤抵抗性が発達しないように、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。
	ハダニ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	
	ヨトウムシ類 (ヨトウガ、シロシタヨトウなど)	幼虫発生 初期： 9月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	
	ハスモンヨトウ	幼虫加害 盛期： 9月中旬	少発 (局多発)	平年：多 前年：多	
	オオタバコガ		少発 (局多発)	平年：やや多 前年：多	
アブラナ科野菜	コナガ		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1) 対象作物により薬剤が異なる。 2) 薬剤抵抗性が発達しないように、異なる系統の薬剤をローテーション使用する。
	モンシロチョウ (アオムシ)		少発 (局中発)	平年：少 前年：並み	
	タマナギンウワバ	加害盛期： 9月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	
	キスジノミハムシ	加害盛期： 9月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	
	ハイマダラノメイガ	加害盛期： 9月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや多	
					1) 薬剤は新芽にかかるように散布する。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナス ピーマン キュウリ ホウレン ソウ	アザミウマ 類		少発 (局多発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 寄主範囲が広いので注意する。
トマト	ミカンキイ ロアザミウ マ		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	
トマト キュウリ	タバココナ ジラミ		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	
ネギ	シロイチモ ジヨトウ		少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	ハダニ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 同一系統の薬剤の連用を避ける。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	白さび病		少発	平年：やや少 前年：やや少	1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 下葉を除去し、日当たり、風通しを良くする 3) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ 類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバコ ガ		少発 (局中発)	平年：多 前年：やや多	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	ハダニ類		少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 同一系統薬剤の連用を避ける。